

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
3	1	3	老人福祉費	206

部局名	健康福祉部
課名	高齢者支援課

I：事業概要

施策事業名	高齢者福祉総務
事業目的	他の事業に属さない高齢者福祉事業全般に係る事務を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体計画（毎年の実施でないもの） <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和6年度 … 第10次高齢者福祉計画及び第9次介護保険事業計画に従い、適正に事業の運営を行った。</li> <li>○令和7年度 … 次期計画策定に係るニーズ調査等を実施する。</li> <li>○令和8年度 … 高齢者保健福祉事業推進委員会にて協議を行い、次期計画を策定する。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者福祉事務全般</li> <li>○高齢者保健福祉事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者保健福祉事業推進委員会を開催し、事業の進捗について協議する。</li> </ul> </li> <li>○国や県の補助金を活用し、民間事業所の改修を補助する。</li> <li>○特別養護老人ホーム敷地賃借料の一部を補助し、安定した運営を支援する。</li> </ul> </li> <li>●主な決算の内訳 <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者保健福祉事業推進委員会委員報酬、費用弁償 102,500円</li> <li>○地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金 4,876,000円</li> <li>○介護施設等整備事業費補助金 3,080,000円</li> <li>○介護人材育成等支援補助金 553,800円</li> <li>○特別養護老人ホーム犬山白寿苑運営費補助金 1,592,502円</li> </ul> </li> </ul>
事業の成果・効果	第10次高齢者福祉計画及び第9次介護保険事業計画に従い、適正に事業の運営を行った。高齢者福祉事務では、高齢者保健福祉事業推進委員会を開催し、事業の進捗確認及び計画策定に係るスケジュールについて協議を行った。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

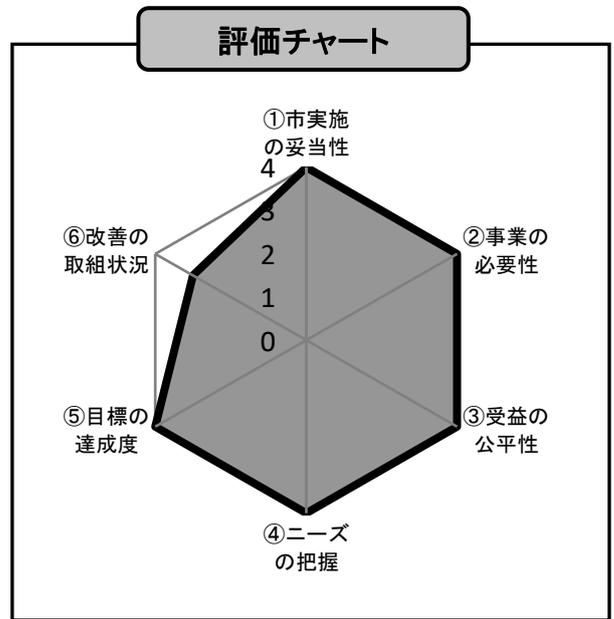
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
高齢者福祉事務	8,798	8,599	199	2%	4	3	3
介護施設等運営補助	1,593	0	1,593	100%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	10,391	8,599	1,792	17%	4	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		5,251	10,391	8,054
財源内訳	国県支出金	635	8,599	1,500
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	120
	一般財源	4,616	1,792	6,434
一般財源の割合		88%	17%	80%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	老人福祉法と介護保険法などにより、市の責務とされている。
②事業の必要性	4	各計画策定は、高齢者福祉事業及び介護保険事業の運営基礎となる。
③受益の公平性	4	人口の約3割を占める高齢者を対象としている。
④ニーズの把握	4	介護サービス相談員を通じてサービス利用者の声を聴くとともに、事業者団体からも随時の意見徴収を行っている。
⑤目標の達成度	4	現計画 (R6~8年度) に基づき事業を進めた。
⑥改善の取組状況	3	次期計画策定に向けて、これまでの実績や、市民・事業所の声を聴き、情報収集を進めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	令和7年度に実施するアンケート (ニーズ調査及び在宅介護実態調査) に向け、高齢者保健福祉事業推進委員会において事業の進捗確認及び計画策定に係るスケジュールについて協議を行った。
令和7年度に見直しを実施している事項	令和8年度に策定する次期計画に向けて、ニーズの把握のためのアンケート (ニーズ調査及び在宅介護実態調査) を実施する。 また、認知症施策推進計画の策定に向け、認知症の市民及びその家族の声を聴き実情を把握する。
今後見直しを検討する事項	介護保険事業計画の進捗管理と評価を行いながら、必要な手段を講じる。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
高齢者人口がピークとなる2040年代を見据え、地域包括ケアシステムの構築を進める。	介護保険事業計画の進捗管理と評価を行いながら、必要な手段を講じる。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
3	1	3	老人福祉費	206

部局名	健康福祉部
課名	高齢者支援課

I：事業概要

施策事業名	老人保護措置				
事業目的	経済的理由などにより在宅生活が困難な高齢者を養護老人ホーム等に措置し、安定した生活を送れるようにする。				
事業内容	<p>●全体計画・主な事業内容</p> <p>○経済的理由などにより在宅生活が困難な高齢者を養護老人ホームに措置し、安定した生活を確保する。</p> <p>また、要介護（要支援）認定を受けていない高齢者が、家族等の都合で一時的に養護できない場合は、短期間の入所サービスを提供する。</p> <p>●主な決算の内訳</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>・老人保護措置</td> <td style="text-align: right;">37,665,758円</td> </tr> <tr> <td>・高齢者短期入所事業</td> <td style="text-align: right;">1,296,374円</td> </tr> </table>	・老人保護措置	37,665,758円	・高齢者短期入所事業	1,296,374円
・老人保護措置	37,665,758円				
・高齢者短期入所事業	1,296,374円				
事業の成果・効果	在宅生活が困難な高齢者を保護することができた。				

II：個別事業内訳

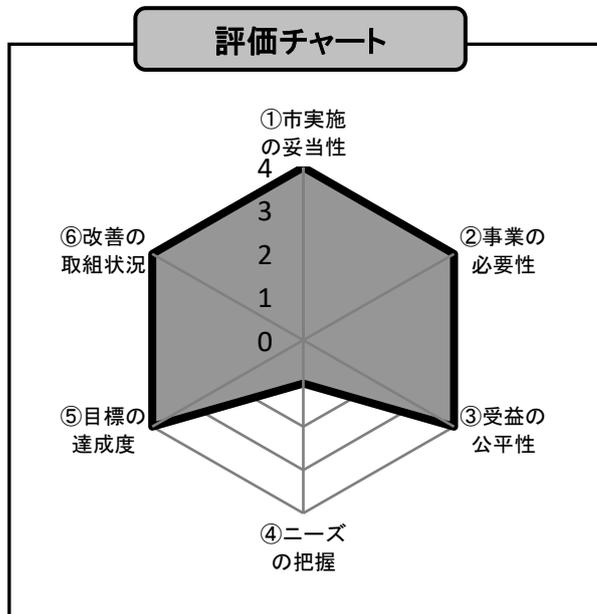
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
老人保護措置	39,092	5,087	34,005	87%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	39,092	5,087	34,005	87%	4	4	4

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		36,403	39,092	50,448
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	3,994	5,087	5,650
	一般財源	32,409	34,005	44,798
一般財源の割合		89%	87%	89%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	老人福祉法第11条に基づき市が実施しなければならない事業である。
②事業の必要性	4	身体的、精神的、環境的、または経済的な問題などにより、在宅で生活ができない高齢者を養護しなければならない。
③受益の公平性	4	高齢者の誰もが対象になり得る事業である。なお、措置者からは収入状況等に応じて負担金を徴収している。
④ニーズの把握	1	ニーズにより行う事業ではないが、相談や関係機関との情報共有などにより必要性を把握している。
⑤目標の達成度	4	必要性を見極めて適切な措置を行っている。
⑥改善の取組状況	4	引き続き適切な措置を行う。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	なし
令和7年度に見直しを実施している事項	なし
今後見直しを検討する事項	なし

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
入所者の加齢や身体機能の低下により、介護の必要性が増し、今後養護老人ホームでの生活が困難になる者が増えていくことが考えられる。また、近年虐待などで同居者との同居の継続が困難と認められる方が増加傾向にあり、対応の複雑性が伴っている。	養護老人ホームと連携し、介護保険の施設サービス等の利用に乗り換えを検討し、引き続き安定した日常生活が送れるようにする。また、虐待事案含む措置入所が必要な市民の受け入れを進めるとともに、受託法人の経営状況に注視していく。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
3	1	3	老人福祉費	208

部局名	健康福祉部
課名	高齢者支援課

I : 事業概要

施策事業名	高齢者生きがい支援
事業目的	高齢者の生活を健全で明るい豊かなものにし、高齢者福祉の増進を図る。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体計画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者の自主的な生きがいづくりや健康づくりを支援し生き生きとした高齢社会の実現を目指す。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○敬老事業を実施することで、高齢者の長寿を祝うとともに、交流の場を提供する。                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数え100歳祝金 340,000円</li> <li>・ 消耗品費   <ul style="list-style-type: none"> <li>満90歳祝品(犬山茶) 497,340円</li> <li>金婚、ダイヤ婚祝品(湯呑) 415,800円</li> <li>75歳、金婚、ダイヤ婚祝品(お食事券) 1,236,080円</li> </ul> </li> <li>・ 75歳のつどい開催委託 1,791,240円</li> </ul> </li> <li>○老人クラブを支援し、高齢者の社会活動の促進と自立を促進する。                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老人クラブ連合会指導員派遣委託 1,422,044円</li> <li>・ 老人クラブ連合会助成金 1,547,336円</li> <li>・ 単位老人クラブ助成金 1,500,000円</li> </ul> </li> <li>○シルバー人材センターの安定した運営を支援し、健康で働く意欲のある高齢者が、その経験や能力を活かす機会を確保する。                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シルバー人材センター運営費補助金 24,414,034円</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
事業の成果・効果	高齢者の生きがいづくりを行う団体の支援を行うほか、高齢者が活躍できる場を確保した。また、人生の節目を迎える高齢者をお祝いし、長寿への敬意と感謝の意を表した。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

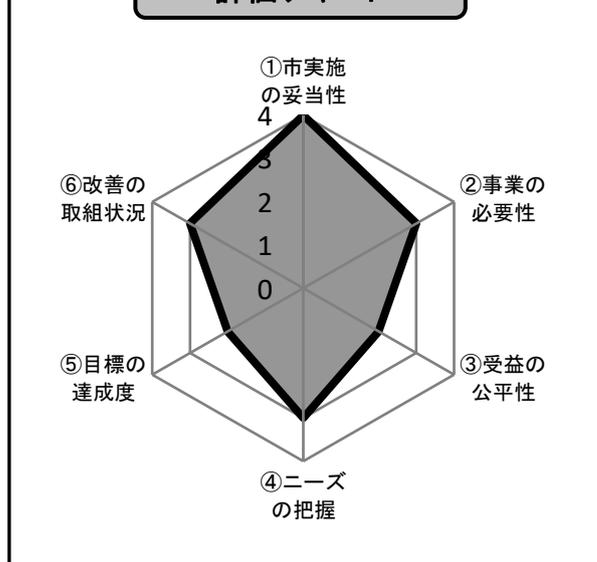
(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
生きがい支援	4,546	0	4,546	100%	3	3	3
老人クラブ活動支援	5,469	1,010	4,459	82%	4	4	4
シルバー人材センター運営支援	24,414	0	24,414	100%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	34,429	1,010	33,419	97%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		32,196	34,429	37,453
財源内訳	国県支出金	968	1,010	1,010
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	31,228	33,419	36,443
一般財源の割合		97%	97%	97%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	老人福祉法や高齢者等の雇用の安定等に関する法律により、市の責務が規定されている。また、敬老事業は採算性が無く民間単独での実施は難しい。
②事業の必要性	3	高齢者の生きがいづくりにつながる事業として継続して行う意義はある。
③受益の公平性	2	支援する団体やその会員、金婚・ダイヤモンド婚など、一定の条件を達した高齢者が対象となる。
④ニーズの把握	3	75歳のつどいについて、次年度の開催日程の参考とするため、不参加の方にアンケートを行い、その理由を確認し、原因を調査した。
⑤目標の達成度	2	75歳のつどいについて、参加率は前年度約25%から令和6年度は約21%と4%減であった。
⑥改善の取組状況	3	75歳のつどいについて、次年度の開催日程の参考とするため、不参加の方にアンケートを行い、その理由を確認し、原因を調査した。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	75歳のつどいについて、対象の年代の方がこれまで以上にアトラクションを楽しむため、演歌や落語、曲芸など、内容を見直した。また、次年度の開催日程の参考とするため、不参加の方にアンケートを行い、その理由を確認し、原因を調査した。
令和7年度に見直しを実施している事項	75歳のつどいについて、アンケートによる不参加理由を踏まえ、土曜日開催から平日開催とする。
今後見直しを検討する事項	高齢化率が上昇していく中で、シルバー人材センターや老人クラブの会員数が伸び悩んでいるため、各団体と連携した会員確保の支援方法を検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
75歳のつどいのあり方について、参加者が減少傾向だが、現在の事業形態は適切か見極める必要がある。	令和7年度の見直しを踏まえ事業を実施し、その後参加者や参加されなかった方の意見も聞いた上で、どのような手法で実施するのが適切であるか、引き続き検討していく。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
3	1	3	老人福祉費	208

部局名	健康福祉部
課名	高齢者支援課

I : 事業概要

施策事業名	高齢者生活支援
事業目的	在宅での日常生活に不安を持つ高齢者等が、できる限りその暮らしを継続することができるよう支援する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体計画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○支援が必要な高齢者及びその家族に日常生活の支援を行う。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○決められた日に利用者宅へ電話をかけることで行う安否確認                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとり暮らし老人安否確認事業委託 649,058円</li> </ul> </li> <li>○虚弱な高齢者の方の緊急事態に対応するための通報装置の貸し出し                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急通報システム事業委託 315,150円</li> </ul> </li> <li>○在宅で寝たきり等の要介護者を介護する方への手当の支給                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅要介護者介護手当 8,320,000円</li> </ul> </li> <li>○在宅で重度の要介護者を介護する方への介護用品の支給                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者介護用品支給事業 1,399,570円</li> </ul> </li> <li>○高齢者の外出を支援するためのタクシー料金の助成                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者タクシー料金助成事業 9,935,550円</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
事業の成果・効果	各種高齢者福祉サービスの提供により、住み慣れた環境での日常生活の継続を支援した。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

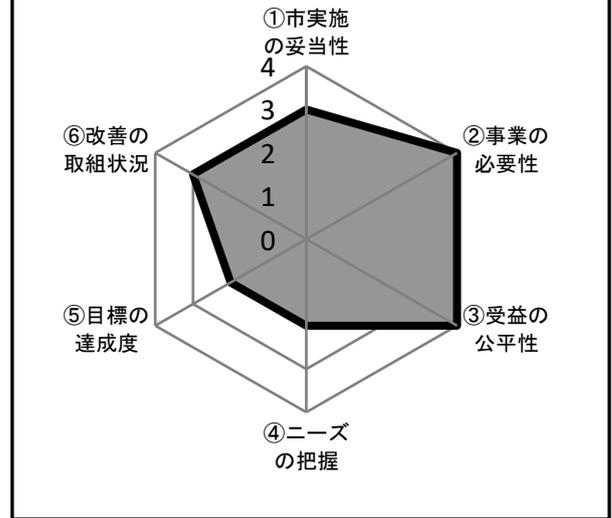
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
高齢者生活支援	23,080	797	22,283	97%	3	4	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	23,080	797	22,283	97%	3	4	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		21,423	23,080	36,618
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	151	797	482
	一般財源	21,272	22,283	36,136
一般財源の割合		99%	97%	99%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	採算性のない高齢者福祉サービスを実施するもので、国や県のサービスとは重複しない。
②事業の必要性	4	高齢者の日常生活を支援するものであり、必要性は極めて高い。
③受益の公平性	4	人口の約3割を占める高齢者が対象となり得る事業である。
④ニーズの把握	2	サービスの必要性などを確認するため、定期的ニーズ調査を行っている。
⑤目標の達成度	2	支援が必要な高齢者への福祉サービスであり、目標の数値化は困難であるため。
⑥改善の取組状況	3	高齢者が目にしやすい、市広報を通じて各サービスの周知を行った。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	総合的な交通施策の見直しの一環として、これまでの85歳以上の方に加え、75歳から84歳のうち、自動車運転免許を所持しておらず、住民税非課税世帯の属する方を新たに基本料金助成の対象とした。
令和7年度に見直しを実施している事項	令和7年度からは、85歳以上で住民税非課税世帯の属する方に対して、年間12,000円の利用料金の助成を開始する。
今後見直しを検討する事項	特になし

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加に伴い、ニーズが多様化している。	社会情勢や市民のニーズに応じ、事業のあり方を見極める。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
3	1	3	老人福祉費	210

部局名	健康福祉部
課名	高齢者支援課

I : 事業概要

施策事業名	介護保険特別会計繰出金								
事業目的	介護保険法に基づき、介護保険事業の運営のため、介護保険特別会計で要する費用を負担する。								
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主な事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険事業の運営のため、介護保険特別会計で要する経費を負担する。</li> </ul> </li> <li>●決算の内訳                             <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>・介護給付費現年度分</td> <td style="text-align: right;">636,936,000円</td> </tr> <tr> <td>・地域支援事業費現年度分</td> <td style="text-align: right;">152,085,000円</td> </tr> <tr> <td>・事務費繰出金</td> <td style="text-align: right;">35,356,000円</td> </tr> <tr> <td>・低所得者保険料軽減負担分</td> <td style="text-align: right;">40,725,000円</td> </tr> </table> </li> </ul>	・介護給付費現年度分	636,936,000円	・地域支援事業費現年度分	152,085,000円	・事務費繰出金	35,356,000円	・低所得者保険料軽減負担分	40,725,000円
・介護給付費現年度分	636,936,000円								
・地域支援事業費現年度分	152,085,000円								
・事務費繰出金	35,356,000円								
・低所得者保険料軽減負担分	40,725,000円								
事業の成果・効果	一般会計から介護保険特別会計に繰出金を支出し、介護保険事業を運営した。								

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

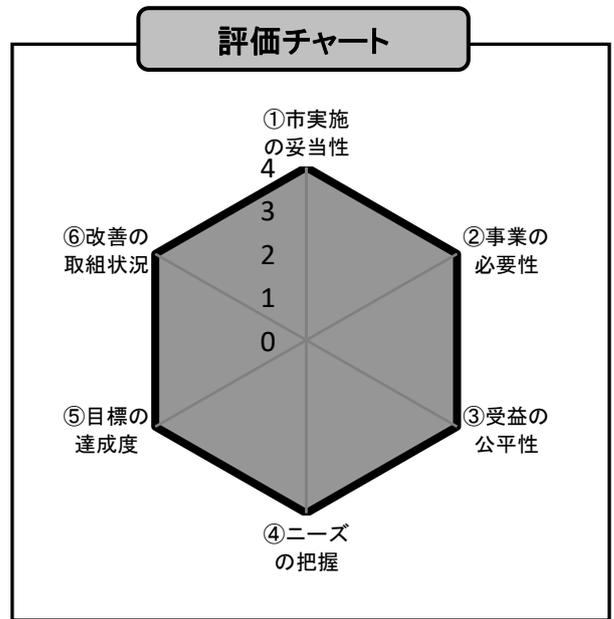
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
介護保険特別会計繰出金	865,102	104,003	761,099	88%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	865,102	104,003	761,099	88%	4	4	4

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		828,986	865,102	889,505
財源内訳	国県支出金	39,444	104,003	125,177
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	789,542	761,099	764,328
一般財源の割合		95%	88%	86%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	介護保険法第124条により一般会計の負担が定められている。
②事業の必要性	4	介護保険事業を運営していくうえで必要な財源である。
③受益の公平性	4	40歳以上の市民全員を対象とした制度である。
④ニーズの把握	4	介護サービス相談員を通じてサービス利用者の声を聴くとともに、事業者団体からも随時の意見徴収を行っている。
⑤目標の達成度	4	介護保険事業計画に基づき運営することができた。
⑥改善の取組状況	4	一般会計からの繰り出しを介護保険事業計画のとおり行っており、課題はない。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	特になし
令和7年度に見直しを実施している事項	特になし
今後見直しを検討する事項	特になし

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
特になし	介護保険事業計画に従い、毎年度の繰り出しを行う。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
3	1	4	老人福祉施設費	210

部局名	健康福祉部
課名	高齢者支援課

I：事業概要

施策事業名	高齢者福祉施設管理
事業目的	高齢者福祉施設を適正に管理・運営し、教養活動やレクリエーションの活動の場を提供することで、高齢者の健康増進を図る。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体計画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者福祉施設を適切に運営及び維持管理することで、安全で快適な環境を確保する。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○施設の管理運営、維持管理の実施                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設管理業務委託 16,483,104円</li> <li>・光熱水費 4,383,839円</li> <li>・修繕料 2,521,085円</li> </ul> </li> <li>○改良維持補修工事費等                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉活動センター駐車場改修工事 2,382,600円</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>●その他                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○施設                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・老人福祉センター（羽黒老人福祉センター、南老人福祉センター、楽田老人福祉センター）</li> <li>・老人憩の家（東部老人憩の家、前原老人憩の家、内田老人憩の家、五郎丸老人憩の家、池野老人憩の家）</li> <li>・高齢者活動センター（高齢者活動センター、南部高齢者活動センター）</li> <li>・福祉活動センター</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
事業の成果・効果	施設全体で延べ36,066人の利用があった。

II：個別事業内訳

（単位：千円）

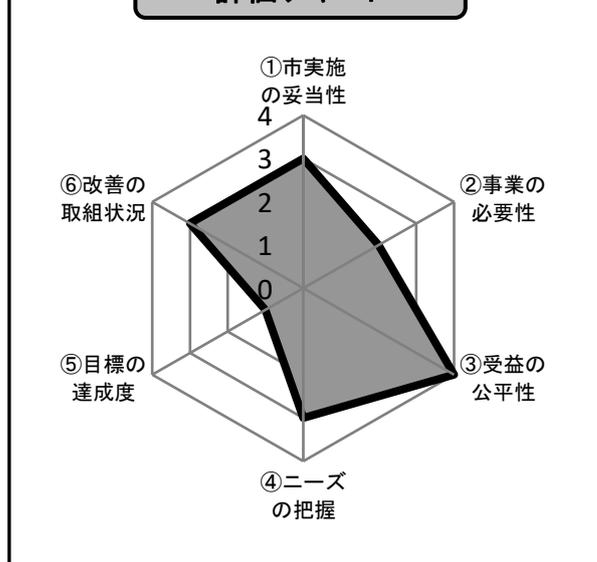
（見直し・点検進捗評価は4段階）

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
高齢者福祉施設管理	27,911	1,641	26,270	94%	3	4	3
高齢者福祉施設営繕	2,592	0	2,592	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	30,503	1,641	28,862	95%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		26,184	30,503	29,104
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	1,776	1,641	1,590
	一般財源	24,408	28,862	27,514
一般財源の割合		93%	95%	95%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市に設置義務はないが、高齢者の健康増進やレクリエーションのために必要な施設である。
②事業の必要性	2	年間、36,066人の利用があるが、その大半が趣味、教養にかかる利用のため、日常生活に不可欠な施設ではない。
③受益の公平性	4	人口の約3割を占める高齢者を対象とする事業である。
④ニーズの把握	3	施設の閉館日についてのアンケートを実施し、ニーズを把握している。
⑤目標の達成度	1	利用にあたって目標値は特に定めていない。
⑥改善の取組状況	3	防犯体制の強化と個人情報を適正に管理するため、閉館時の点検チェックシートの見直しを図った。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	施設の営繕計画を策定し、計画的な営繕のため、修繕・改修する内容の優先度を設定した。
令和7年度に見直しを実施している事項	修繕・改修等の優先度が高いトイレの改修計画を定める。
今後見直しを検討する事項	修繕・改修等の優先度が高いものから各施設の営繕を進めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
建築後、30年から40年が経過し、老朽化が進む施設が大半となっており、維持管理にコストがかかる。	中長期的な視点をもって計画的な修繕を実施していく。